九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

福岡医学会の解散にあたって

北園, 孝成
九州大学大学院医学研究院病態機能内科学 : 教授

https://doi.org/10.15017/7343658

出版情報：福岡醫學雜誌. 114 (4), pp.132-, 2025-03-25. 福岡医学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

福岡医学会の解散にあたって

九州大学大学院医学研究院　病態機能内科学教授

北　園　孝　成

令和5年7月の福岡医学会幹事会において令和6年3月をもって福岡医学会を解散し「福岡医学雑誌」を本号をもって廃刊とすることが決定されました．福岡医学会ならびに「福岡医学雑誌」は我が国の医学の発展と若手の育成に多大な貢献をしてきました．

福岡医学雑誌は明治40年6月九州大学の前身である京都帝国大学福岡医科大学の学友会雑誌部から発行された「福岡医科大学雑誌」を継承する形で発刊されました．耳鼻咽喉科初代教授久保猪之吉博士が編集責任者となり幅広い分野の原著をはじめ臨床講義や学内行事，学友会活動にいたるまで掲載され分厚い装丁であったことが記されています．その後も本誌は継続され，大正15年には学友会雑誌部から医学部の発行となり，昭和15年に福岡医学会が発足した後に本会の機関雑誌として現在の「福岡医学雑誌」に名称を変えました．本誌は医学，歯学，薬学，医療経営・管理学，看護学，保健学などに関する学内外の研究や診療の総合的な発表の場として広く活用され，昭和40年（第50巻）には発表された論文が年間5,399ページにのぼったとのことです．世界的な研究も多く発表され，ノーベル賞候補となった稲田龍吉博士のワイル氏病病原体の発見の第一報が本誌に掲載されたことは広く知られています．

私も平成8年5月に九州大学の助手に採用していただいて以来，福岡医学会に参加させていただきました．教授就任後の平成23年にはご依頼いただき，総説として「福岡脳卒中データベース研究（Fukuoka Stroke Registry）」のタイトルで論文を掲載していただきました．論文の図を表紙に使っていただいたことを懐かしく思い出します．また，少ない数ではありましたが，査読をする機会もいただき，本誌の運営にわずかではありますが協力させていただきました．平成31年1月から4年間本会の会長を務めさせていただきましたが，この間に活発な活動が行えなかったことを心よりお詫びを申し上げます．原著論文は欧文雑誌に投稿することが基本となり本誌への投稿論文は激減しましたが，新任の教授の皆様を中心に多くの総説論文を掲載していただきました．本誌が若い先生方の研究内容を広く知っていただく場として活用いただけるのではと考えておりました．しかしながら，運営費の確保が困難であり，事務をご担当いただいてきた野田様と天野様には大変なご苦労をおかけしました．今回の福岡医学会の解散と本誌の廃刊はかかる状況の中でやむをえないご判断であったと思います．

最後になりますが，これまで福岡医学会の運営ならびに「福岡医学雑誌」の発刊にご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます．